

# 1. 評価結果概要表

作成日平成21年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102907
法人名	医療法人社団 緑洋会
事業所名	グループホームアダージオ泉
所在地	香川県高松市春日町1336番地1 (電話)087-841-8828

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年9月30日	評価決定日	平成21年11月12日

## 【情報提供票より】(平成21年8月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000円	その他の経費(月額)	11,000円	
敷金	有( )円	( )無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	4名	要支援2	1名		
年齢	平均 79歳	最低	59歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉クリニック・屋島総合病院・高松協同病院・てらい歯科矯正歯科
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、最後まで自分らしく生き抜きたいと考える方に不自由な部分は支えあい、サポートして、快適な生活を続けていけるよう、緩やかに(アダージオ)老いを受け入れゆったりとした気持ちで暮らしの中に生きる喜びを感じられる事業所であることを理念としている。居室は全て南向きとなっており、明るい雰囲気が工夫され、職員は利用者の持てる力を少しでも持続できるよう、根気よく自立支援を図っている。医療機関との連携も確立され、安心した日常生活につながっている。利用者は、職員のさり気ないサポートで生き生きとした表情や姿がうかがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の課題について、利用者の理解とサービス向上のための職員の研修育成、引継ぎ時の意見交換、記録と実践の積み重ねなど、職員一人ひとりが日々の努力を怠らないチームプレーで取り組む姿勢がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>両ユニットの管理者を中心に職員全員の声を聞き自己評価の作成がなされ、その取り組みが職員の意識高揚に結果的に結びつき、サービス向上・各職員の自己研鑽にもそのプラス面がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政担当者、地域包括支援センター、地域代表、利用者家族などの参加のもと開催されている。今後開催回数を増やし地域に密着した住民(自治会長、婦人会、老人会、民生委員等)にも協力を呼びかける努力と工夫が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には面会時や行事参加の時に近況報告や意見を伺い迅速な対応がなされている。しばらく面会や連絡のない家族には電話や手紙で連絡し、近況報告等行っている。現在は家族の苦情や不安は特に出ていないが、常に職員全員で気配りを怠らないような努力がうかがえる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、ボランティアの受け入れや祭りの獅子舞の訪問、日々の散歩時には近所の方々と挨拶を交わすほか、地域イベントにも参加してお互いに地域の住民であるという意識が持てるようにしている。災害時の協力体制の確立など多方面での積極的交流や運営推進会議への参加に今後期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族の愛情に包まれ、住み慣れた地域で不自由な部分は支えてもらい快適な生活が送れるよう緩やかに(アダージオ)老いを受け入れ、ゆったりとした気持ちで暮らしていくなかで生きる喜びを感じられる事業所であることを理念にうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は全職員が毎日の引継ぎ時にも唱和し、実践的取り組みがうかがえる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事や保育園、福祉施設のイベントにも参加し、地元のボランティアの協力も得ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組むことによりサービスの向上、また個々の意識の高揚にもプラス面が大きい。外部評価についてはサービスの質向上に向けた職員の次年度の目標に成果を期待したい。	○	職員全員に自己評価の項目別、または特に力を入れて努力している個々の項目についてからでも記入してもらい管理者が中心になり全員で取り組む工夫が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会では外部評価の結果も報告しており、委員からは卒直な意見が出され実現に努めている。自治会に加入しているメリットを生かし、メンバーに地元の民生委員、老人会代表、婦人会などの参加の呼びかけに期待したい。	○	運営推進会議の記録を残し、2カ月に1回開催、地域の代表者の参加などについて今後期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政との連携や、地域包括支援センター、介護保険課などとの交流、意見交換は必ず訪問する機会を作っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話の連絡、報告書にてホームでの生活、行事、内容の連絡相談を行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族交流会を開催しており、認知症の理解や家族としての素直な意見で懇談することにより認識を深め、家族、ホームが一体となり利用者を温かく見守る姿勢に工夫がうかがえる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関わりも大切にしているが、いろいろな利用者との関わりも重要と考え、両ユニットの職員を固定化せず相互の異動により全職員で利用者個々の理解を深めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内で学習の機会を作り、発表、報告を行っている。また、外部の研修会には可能な限り全職員が受講できる体制が取られている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、他のグループホームとの交流は図れていない。</p>	○	機会を作り、他の事業所との交流の機会を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に関しては本人と家族の見学、入院先からの入居者には入院先に訪問を重ねスムーズな入居が出来るような支援を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員は介護する側、される側という関係にならないように、同じ時間を共有する同士としての意識を重視している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の困難な方でも身振りや表情などから理解できるようにしており、日々の生活支援から努力がうかがえる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎回、家族、利用者の生活の要望を聞き取り、主治医、ケアマネジャー、全職員で検討し、介護計画を見直している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は3カ月に一回の見直しを行っている。緊急に入院した場合など臨機応変な対応がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人医療機関の通院は支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望は聞いているが、特に希望がなければ設立母体の診療所での受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族との話し合いができており、終末期の方向性は主治医(理事長)と相談、決定している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は基本的人権の尊重と個人情報保護法の理解のもとにケアを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備や後片付け、洗濯、園芸、掃除等個々の能力に合った声掛けをして、一人ひとりに合った過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から毎日配達されており、ホームの畑で収穫された野菜を使うこともある。手伝える利用者は調理、配膳、食後の後片付けについても協力する姿が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は週三回(月、水、金)の入浴が行われている。希望者にはこの限りでない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の経験や得意なことを活かして、役割をもって作業をしてもらい、出来たことに対して感謝の気持ちを表すことにより達成感を感じてもらえるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、園芸、買い物などできるだけ戸外に出掛けることにより、気分転換を図ったり、季節感を感じるよう取り組んでいる姿がうかがえる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口は電気錠が設置されているが、立地条件から鍵を掛けないことは難しい現状にある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の避難訓練は計画表により実施しているが、全職員、利用者と地域の方と連携し、夜間避難後の見守りや夜間の避難方法について自治会参加の協力を依頼をし、一緒に実施するなどの工夫を期待したい。	○	夜間の火災、災害の場合には多くの被害が発生することを想定し、その対策の一環として地元の住民の協力とサポート体制を構築する工夫と努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や水分量の摂取量を個別に記録し、情報は職員が共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な要素はなく、日差しをロールカーテンなどで調整して、まぶしさを感じないような工夫がうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理だんす、洋服だんす、机、椅子、ソファが備え付けになっている。その他の装飾品は危険でない限り馴染みの物品の持込がされている。		